

(第二十六回「児童・生徒の平和メッセージ」詩部門 小学校高学年の部 最優秀賞作品)
(平成二十八年沖繩全戦没者追悼式「平和の詩」朗読作品)

平和ぬ世界どう大切

金武町立金武小学校 六年 仲間 里咲

「ミンミンミン」

今年も蝉の鳴く季節が来た

夏の蝉の鳴き声は

戦没者たちの魂のように

悲しみを訴えているということ

耳にしたような気がする

戦争で帰らぬ人となった人の魂が

蝉にやどりついているのだろうか

「ミンミンミン」

今年も鳴き続けることだろう

「おじいどうしたの？」

左うでをおさえる祖父に問う

祖父の視線を追う私

テレビでは、戦争の映像が流れている

しばらくの沈黙のあと

祖父が重たい口を開いた

「おじい海軍にいたんだよ」

おどろく私をよそに

「空からの弾が左うでに当たってしまった

んだよ」

ひとりごとのようにつぶやく祖父の姿を

今でも覚えている

戦争のことを思い出すと痛むらしい

ズキンズキンと・・・

祖父の心の中では

戦争がまだ続いているのか

今は亡き祖父

この蝉の鳴き声を

空のかなたで聞いているのか

死者の魂のように思っているのだろうか

しかし私は思う

戦没者の悲しみを鳴き叫ぶ蝉の声ではないと

平和を願い鳴き続けている蝉の声だと

大きな空に向かって飛び

平和の素晴らしさ尊さを

私達に知らせているのだと

人は空に手をのびし

希望を込めて平和の願いを蝉とともに叫ぼう

「ミンミンミン」

「平和ぬ世界どう大切」